

第6章 道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）

第1 編成要領改訂の趣旨と要点

平成27年3月、文部科学省は学校教育法施行規則及び学習指導要領を一部改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」という。）と位置付けた。平成27年7月に公表された中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では、これまでの道徳教育の課題について、以下の例を示した上で、これらの課題や実態を真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要があるとしている。

- ・ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
- ・ 他教科に比べて軽んじられていること
- ・ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること

そのため、中学校教育課程編成要領（道徳）の改訂に当たっては、これらの課題を踏まえながら、各学校が指導計画の作成に、より創意工夫を生かせるよう心掛けたところである。

1 改訂の趣旨

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切に行わなければならない。この道徳教育の基本的な考え方は、これまでの考え方を引き継ぐものであり、今回の改訂は、このことを踏まえた上で改善を図り、道徳教育を一層充実させるものとする。

今回の改訂の趣旨は、次のとおりである。

- (1) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要としての道徳科の役割を示す。
- (2) そのための指導計画の作成と内容の取扱いを示す。
- (3) 道徳科の指導の在り方を明確にし、「考える道徳」「議論する道徳」を充実する。
- (4) 道徳教育を充実させるために必要な要点、配慮事項を示す。

2 改訂の要点

今回の改訂の要点について、中学校学習指導要領に沿い、以下のとおり示す。

(1) 「第1章 総則」に関わって

- ア 道徳教育も道徳科も、その目標は「道徳性」を養うことである。その上で、道徳教育の目標が、「人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と簡潔に示されたことを受け、その目標を指導計画等に反映すること。
- イ 道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体で行うことから、校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となって全体計画を作成して全教師が協力して行うこと。また、各教科等で道徳教育の指導の内容及び時期を示すこと。
- ウ 豊かな体験の充実と、道徳教育がいじめの防止や安全の確保につながることを指導計画等に反映すること。
- エ 道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表し、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携に努めること。

(2) 「第3章 特別の教科 道徳」に関わって

- ア 道徳科の目標として、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」と示されたことを、道徳科の授業に反映すること。
- イ 内容項目の4つの視点について、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」と、順序が改められたことを指導計画や道徳科の授業に反映すること。
- ウ それぞれの内容項目に付記された「A 自主、自律、自由と責任」などの言葉を指導計画に反映すること。
- エ 内容項目については、改正された項目等を、指導計画や道徳科の授業に反映すること。
- オ 指導計画の作成について、「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫」が加えられたことを受け、年間指導計画等に反映すること。

カ 生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりできるよう、指導の工夫があること。

キ 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動を取り入れること。また、指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。

第2 指導計画の作成

1 基本的な考え方

道徳教育における指導計画とは、「道徳教育の全体計画」、「道徳科の年間指導計画」及び「道徳科学習指導案」をいう。各学校は道徳教育の充実を図るため、道徳科を道徳教育の要とした、「道徳教育の全体計画」、「道徳科の年間指導計画」を作成する。

指導計画の作成に当たっての基本的な考え方は次のとおりである。

(1) 道徳教育の指導体制

ア 校長の方針の明確化

校長は、道徳教育の充実・改善を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、生徒の道徳性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、学校の教育目標との関わりで、道徳教育の基本的な方針等を明示する。

イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上で中心となり、校長の方針の下、全教師の参画、分担、協力の下にその充実を図る。機能的な協力体制を整えるため、道徳教育推進教師の役割を明確にしておく必要がある。

(2) 指導内容の重点化

ア 自立心や自律性を高め、規律ある生活をすることに配慮する。

イ 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする心を育てることに配慮する。

ウ 法やきまりの意義に関する理解を深めることに配慮する。

エ 自らの将来の生き方を考え、主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うことに配慮する。

オ 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに配慮する。

(3) 豊かな体験活動の充実といじめの防止・安全の確保

ア 教師と生徒、生徒相互の人間関係を豊かにするために、言語活動の充実を図るとともに、共に語り合う場、学び合う場などを設け、生徒を理解する機会や生徒相互による道徳教育の機会を増やす。また、教室や校舎、校庭などの物的環境は、生徒の道徳性を養うことに深く関わることから、環境の整備に努めることが求められる。

イ 生徒の道徳性が養われるよう、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動など、様々な体験活動の充実を図る。その際、生徒に体験活動を通して道徳教育に関わるどのような内容を指導するのか指導の意図を明確にし、実施計画にも明記する。

ウ 日常生活においては、特に、いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道徳性を養うことで、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践することができるようにする。

(4) 家庭や地域社会との連携

ア 学校は、道徳教育の方針を学校通信やホームページなどで家庭や地域社会に伝え、共通理解を図り、協力を得るようにする。

イ 学校は、懇談会、講演会、学校応援団会議など相互交流の場を設定し、家庭、地域社会と連携して道徳教育の充実を図る。

2 指導計画作成の手順・留意事項

(1) 全体計画

全体計画作成に当たっての作成手順と留意事項は、以下のとおりである。

ア 作成の手順

(ア) 基本的な事項を確認する。

- ・教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ・学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い、生徒の実態と課題

- (イ) 校長の方針の下に、学校の教育目標を踏まえ道徳教育の重点目標、各学年の重点目標を設定する。
- (ウ) 道徳教育推進教師を中心として、全教師による推進体制を示す。
- (エ) 道徳科の指導方針を明確にする。
- (オ) 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。
- (カ) 学校の特色ある教育活動や豊かな体験活動、「規律ある態度」等における道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。
- (キ) 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針を示す。
- (ク) 家庭や地域社会、近隣の学校などとの連携や交流の在り方を示す。
- (ケ) 計画の実施及び評価・改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。

イ 作成上の留意事項

- (ア) 道徳教育推進教師を中心として全教師の協力・指導体制を整える。
- (イ) 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫、校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導の方針を示す。
- (ウ) 道徳教育や道徳科の特質を理解し、具体的な取組を明確にし、教師の意識の高揚を図る。
- (エ) 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにする。
- (オ) 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。
- (カ) 生徒の実態を踏まえ、保護者及び地域の人々の意見を活用することや、学校間交流、関係諸機関との連携に心掛ける。
- (キ) 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。
- (ク) その他

全体計画の別葉として、各教科等、特色ある教育活動、豊かな体験活動の指導内容と道徳科の内容項目との関連を示す一覧表を作成する。全体計画を各学級において具現化し、教師や生徒の個性を生かした道徳教育の指針を示した「学級における指導計画」を作成することも考えられる。

(2) 道徳科の年間指導計画

年間指導計画作成に当たっての作成手順と留意事項は、以下のとおりである。

ア 作成の手順

- (ア) 全体計画に基づいた、道徳科における学年ごとの基本方針を具体的に示す。
- (イ) 道徳教育の重点目標、各学年の重点目標などを踏まえて、各学年で繰り返し指導する内容項目を選定する。
- (ウ) 内容項目配当時数一覧表を作成する。
- (エ) 学年又は学級ごとの実施予定の時期を記載する。
- (オ) ねらいや授業の内容が端的にわかるような主題名をつける。
- (カ) 道徳科の内容項目をもとに、授業のねらいを記述する。
- (キ) 指導で用いる中心的な教材の題名と出典、補助教材や予備教材などを記述する。
- (ク) 主題構成の理由は、ねらいを達成するために活用する教材の内容を踏まえ簡潔に示す。
- (ケ) 展開の大要及び指導の方法を示す。ねらいを達成するために活用する教材の内容を踏まえたものとする。
- (コ) 他の教育活動などにおける道徳教育との関連を示す。
- (サ) 年間指導計画の改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。
- (シ) その他

校長や教頭などの参加や教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、「規律ある態度」との関連、「彩の国の道徳」「家庭用彩の国の道徳」「私たちの道徳」等の活用、複数時間取り上げる内容項目の全体構想などを示す。

イ 作成上の留意事項

(ア) 年間授業時間数を確保できるようにするとともに、全ての内容項目（22項目）を取り上げる。

(イ) ねらいと教材で構成する主題の設定においては、生徒の実態などを考慮し、教材は自分との関わりで考えることができるものを選択する。

(ウ) 計画的、発展的な指導の工夫や内容の重点的な指導ができるような工夫をする。

(エ) 生徒が自ら道徳性をはぐくむことができるように多様な学習活動を工夫する。

(オ) 弾力的な取扱いについて留意する。

- ・ 時期、時数の変更（指導者の恣意的な変更はしない。）

- ・ ねらいの変更（全体構想の上に立ち、協議を経て行う。）

- ・ 教材の変更（一層効果が期待できることを前提に、道徳教育推進教師を含め学年などによる検討を経る。）

- ・ 学習指導過程、指導方法の変更（工夫や成果についての意見交換を積極的に行う。）

(カ) 年間指導計画の評価と改善を計画的に行う。

(3) 道徳科の学習指導案

学習指導案作成に当たっての作成手順と留意事項は、以下のとおりとする。

ア 作成の手順

(ア) ねらいを検討する。

(イ) 生徒の実態を踏まえ、指導の重点を明確にする。

(ウ) 教材を吟味する。

(エ) 学習指導過程を構想する。

(オ) 事前指導、事後指導、家庭や地域社会との連携、他の教育活動との関連について考える。

(カ) 板書計画を立てる。

イ 作成上の留意事項

(ア) 学級の実態、指導者の意図、教材の内容、他の教育活動との関連などに応じて次のように多様な学習指導案を構想し、「考える道徳」「議論する道徳」となるよう工夫する。

- ・ 多様な教材の活用による学習指導

- ・ 道徳的行為に関する体験的な学習を生かすなどの学習指導

- ・ 各教科等との関連をもたせた学習指導

- ・ 複数時間扱いの学習指導

- ・ 学級経営と関連をもたせた学習指導

- ・ 保護者や地域の人々の参加を得るなど家庭や地域社会との連携を図った学習指導

- ・ 図書館等の施設や校外の場所を生かす学習指導

- ・ 問題解決的な学習指導

- ・ 特別活動の多様な実践活動を生かす学習指導

- ・ 校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な学習指導

- ・ 言語活動の充実を図り、言葉を生かし、考えを深める学習指導

(イ) ねらい、生徒の実態、教材の特質などに応じて、また、学習指導過程との関わりで、読み物教材の利用、話し合い、教師の説話、視聴覚機器の利用、動作化や役割演技等の生徒の表現活動、板書を生かす工夫など道徳科の指導効果を高め、ねらいを達成するための様々な指導方法を工夫する。

第3 指導計画作成のための資料

1 全体計画

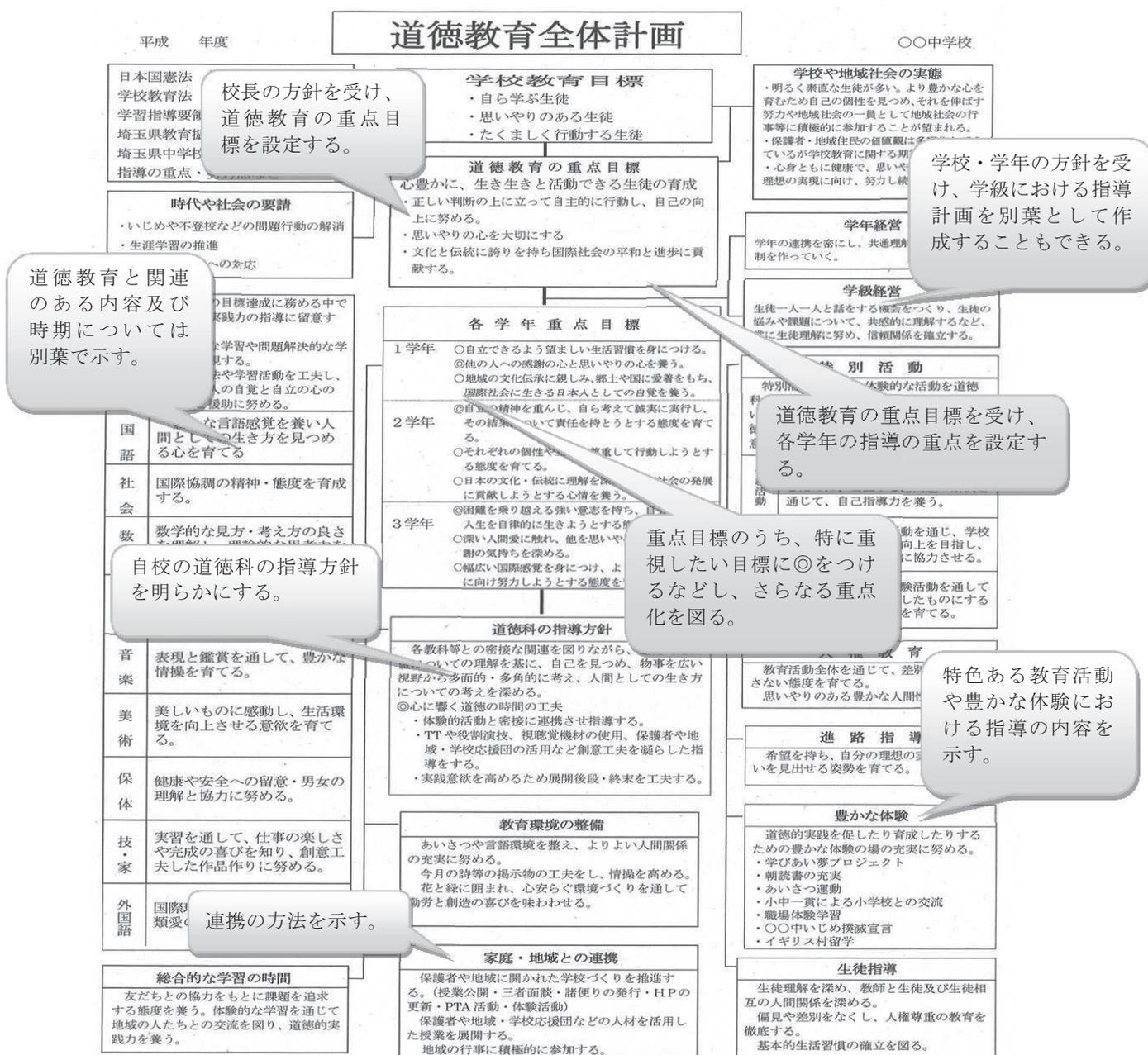
教育活動全体を通じた道徳教育を推進するためには、俯瞰的、構造的、関連的に構成された指導計画が必要不可欠である。

全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための内容や方策を総合的に示した指導計画である。

全体計画の作成に当たっては、校長の方針の下に、学校の設定する道徳教育の基本方針を具体化し、重点目標を達成するために各教育活動がどのような役割を担うのか、家庭や地域社会との関連をどのように図っていくのかなど、特色を生かした学校の道徳教育の推進について総合的に示すようにする。

そして、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの等を別葉にして加え、年間を通して具体的に活用していく。

(1) 全体計画の例



(2) 全体計画の別葉例（各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を示したもの）

各教科等の目標や内容には、生徒の道德性の育成に関係の深い事柄が直接的、間接的に含まれている。また、それぞれの学習場面での活動を通して、よりよい人間関係を築いたり、協働して課題に取り組んだりする意欲を育むことができる。そして、教師の用いる言葉や生徒への接し方、授業に臨む姿勢や熱意は、生徒の道德性の育成に大きな影響をもつものである。

そこで、生徒の道德性を一層豊かに養うため、各教育活動での道德教育がその特質に応じて意図的、計画的に進められ、相互に関連が図られるよう別葉を作成していく。

ア 各教科等と道德教育との関連を示した別葉例

第1学年

	4月	5月	6月	7月
学校行事	始業式・入学式・身体測定	体育祭・PTA総会	修学旅行・部活動大会・期末考査	保護者会・終業式
委員会・生徒会	1年生を迎える会	生徒総会		県大会壮行会
道德科	道德オリエンテーション 「世界に一つだけの花」A 向上心・個性の伸長 「朝のうた」A 節度・節制	「息休みの自由」C 遵法精神 「捨てる、捨てない、そして捨てる」A 自主・自 「ジャッジとチャレンジ」A 向上心		「張君の笑顔」C 公平・公正 「フェンス越しに自分を見つめて」B 友情・信頼
国語科	言葉に出会うために D 感動・畏敬の念	友達をみんなに紹介しよう B 友情 ……の詩		学習に取り組む姿勢・態度 を内容項目と関連させる。
社会科	世界のすがた C 国際理解・国際貢献	世界各地の人々の生活と環境 C 国際理解・国際貢献		
数学科	正の数・負の数 A 真理の探究 学習に取り組む姿勢 A 向上心		文字の式 A 真理の探究 学習に取り組む姿勢 A 向上心	
理科	植物の世界 C 郷土愛 D 生命尊重 D 自然愛護 身近な生物を観察	花のつくりとはたらき 葉茎根のつくりとはたらき		植物の分類
音楽科	オリエンテーション校歌 C よりよい学校生活	イメージと音楽・混声合唱 B 友情・信頼	合唱の喜び B 友情・信頼	
美術科	デッサンの基礎を学ぼう A 向上心	水彩で描こう	色の秘密を知ろう	
保健体育科	体づくり A-2 節度・節制 D 生命の尊さ	陸上競技 A 節度・節制	器械運動 A 節度・節制	水泳 A 節度・節制
技術・家庭科	身の回りの技術 C 勤労	生活を豊かにする製品をつくろう A 向上心、C 勤労		学び合い活動など学習 形態を内容項目と関連 させる。
外国語科	新しい友だちをつくろう B 相互理解	アメリカからの転校生 C 国際理解	リサイクル活動 D 社会参画	
総合的な学習	ベース学習 A 真理の探究		課題追求活動 A 向上心、B 友情	
特別活動	学級の組織を作ろうA 自主・自律・自由と責任 自分のよさを知ろう A 個性の伸長	健康で安全な生活 A 節度・節制	学ぶことの意義を考えよう A 向上心	成長していく身体と心 A 節度・節制

月ごとに作成した別葉では、「いつ、誰が、どの教科等」で何を指導するかが分かりやすい。また、学年会等で「共通にこんなことを指導していこう」と話題にしやすくなり、教職員が組織的に道德教育を推進できる。

イ 教科ごとに作成した別葉例

道德教育 別葉【理科】

ねらい	内容項目	道德との関わり						
		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	
A 主として自	1 自主・自律・自由と責任 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	通年	自主的に自然を調べ実験結果に責任を持つ。 ・実験計画・実験、考察を通して					
	2 節度・節制 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	通年	理科の学習を通して、自身の生活態度を振り返る。 ・安全に留意し、実験器具を取扱う					
D 主として関わり自然にや関するもの	19 生命の尊さ 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	5月	生命の不思議さに気づき、そのかけがえのなさに気づく。	6月	多様な考えを交流させ、生命とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくか、学びを深める。			
	20 自然愛護 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、遠くで自然の愛護に努めること。			2月	災害の事実の理解から自然に対する人間の有限性、自然の中で生かされていることに気づく。	9月	取り組むために必要な心育てる。	
	21 感動・畏敬の念 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深めること。	10月	自然の織りなす美しい現象や人間の力を越えたものを謙虚に受け止める姿勢					
	22 よりよく生きる喜び 人間には自らの弱さや障さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。	通年	これまで歩んできた科学の進歩・発展を知り困難を乗り越えてきた人間の気高さに気づく。					

道德教育全体計画

(理科)における年間指導計画

	1年	2年	3年
4月	【植物たちの生活】 C 郷土愛		
5月	【植物たちの生活】 D 生命の尊さ D 自然愛護		
6月	【植物たちの生活】 D 生命の尊さ	【動物の世界】 D 生命の尊さ	
		【動物の世界】 D 生命の尊さ	【生命のつながり】 D 生命の尊さ D 自然愛護
		【動物の世界】 D 生命の尊さ	【生命のつながり】 D 生命の尊さ D 自然愛護
10月	【変動する大地】 C 郷土愛 D 生命の尊さ D 畏敬の念		【生物どうしのつながり】 D 生命の尊さ D 自然愛護
11月	【変動する大地】 C 郷土愛 D 生命の尊さ D 畏敬の念		

道徳教育 別業【音楽科】

ねらい	内容項目	道徳との関わり		
		1 学年	2 学年	3 学年
A 主として自分自身	1 自主、自律、自由と責任 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、結果に実行してその結果に責任をもつこと。	通	パート練習	通
	2 態度、節制 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、態度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	6	実技テ	11
	3 向上心、個性の伸長 自己を愛つて、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	11	2	2
C 主として集団や社会との関わり	15 よりよい学校生活、集団生活の充実 教師や学校の人が受け入れ、学校や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくらんとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に関与すること。	4	パート練習	通
	16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人の高貴な精神の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	10	10	10
	17 国際理解、国際貢献 我が国の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度を継ぎ、国際社会の一員としての自覚をもち、国際社会の発展に貢献すること。	10	10	10
	18 国際理解、国際貢献 世界の平和と人々の幸福を願い、国際社会の一員としての自覚をもち、国際社会の発展に貢献すること。	10	10	10

学び合い活動など学習形態から内容項目と関連させる。

道徳教育全体計画

(音楽)における年間指導計画

月	1 年			2 年			3 年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
4	「歌声をつくろう」【My Voice】	「歌声をみがこう」【夢の世界を】	「歌声を響かせよう」【TE】	「イメージと音楽」【歌】	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」
5	「公正、公平」	「歌声をみがこう」【夢の世界を】	「歌声を響かせよう」【TE】	「イメージと音楽」【歌】	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」
6	「公正、公平」	「歌声をみがこう」【夢の世界を】	「歌声を響かせよう」【TE】	「イメージと音楽」【歌】	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」	「多声部」
7	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】
8	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】
9	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】
10	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】
11	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】
12	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】	「歌声を響かせよう」【TE】

単元のねらいが道徳的価値に関わるものを示す。

学習に取り組む姿勢・態度を内容項目と関連させる。

各教科等において道徳教育を適切に行うためには、それぞれの特徴に応じて道徳教育に関わる側面を的確に把握する必要がある。そして、それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果を一層高めることができる。また、話し合いの中で自分の考えをしっかりと発表し、友達の意見に耳を傾けたり、各自であるいは協働して課題に最後まで取り組んだりすることで、各教科の学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を育てることもなる。

ウ 道徳の内容項目を基に教育活動を示した別業例

内容項目	1 学年											
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技術家庭	体育	英語	総合的な学習	特別活動	
A 主として自分自身	1 自主、自律、自由と責任											
	2 態度、節制											
	3 向上心、個性の伸長											
B 主として人との関わり	4 希望と勇気、克己と強い意志											
	5 真理の探究、創造											
	6 思いやり、感謝											
C 主として集団や社会との関わり	7 礼儀											
	8 友情、信頼											
	9 相互理解、寛容											
10 道徳精神、公德心												
11 公正、公平、社会正義												
12 社会参画、公共の精神												
13 勤労												
14 家族愛、家庭生活の充実												
15 よりよい学校生活、集団生活の充実												
16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度												
17 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度												
18 国際理解、国際貢献												
19 生命の尊重												
20 自然愛護												
21 感謝、畏敬の念												
22 よりよく生きる喜び												

多数の教科等で扱われている内容項目について、道徳科で深化・統合する。

教科等であまり扱われない内容項目は、道徳科で補充する。

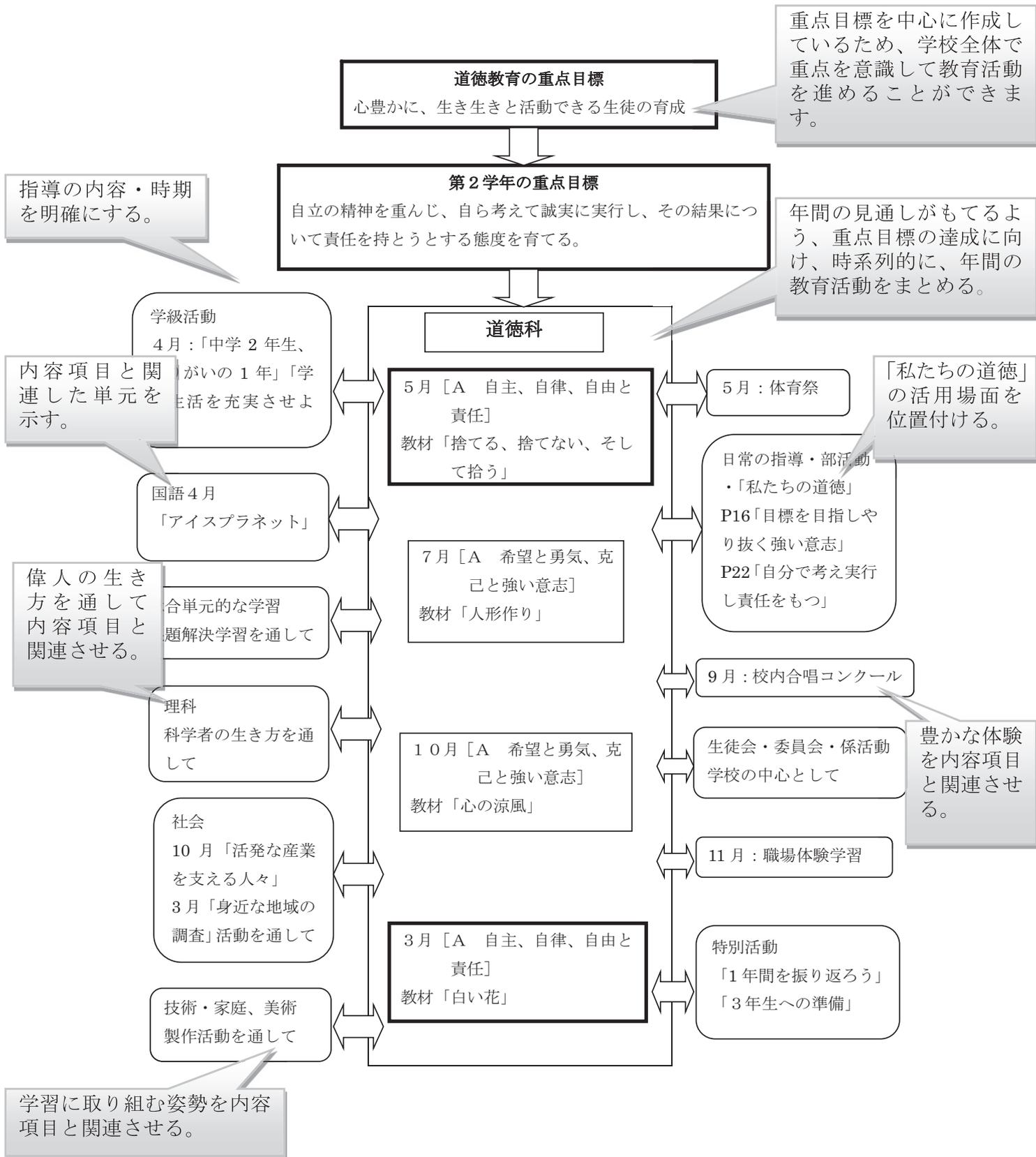
授業では道徳的価値に関わる説話や問いかけを大切に

「さくらさくら」等に親しむとともに、文化の継承に努める

道徳教育に関わる豊かな体験活動や実践活動を示す。

この例では、内容項目 [C 社会参画、公共の精神] や [C 勤労] については、教科等においてあまり指導されておらず、道徳科において補っていかねば生徒の道徳性をバランスよく育成できないことがわかる。また、内容項目 [A 向上心、個性の伸長] では、多数の教科で指導されていることから、道徳科において一層深めることや相互の関連を捉え直したり発展させることに留意して指導することが重要である。

- (3) 全体計画の別葉例（重点目標の達成に向け、各教科・特別活動等との関連をまとめたもの）
 重点目標の達成に向け、道徳科を要として、各教科等の学習や豊かな体験活動等の関連をまとめることで、相互が響き合う生徒主体の道徳学習を展開することが可能となり、生徒一人一人の道徳性を高めていくことができる。



別葉により、物事を多面的・多角的に考え、自らの判断により、適切な行為を選択し実践するなど、道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるようにすることが大切である。そして、教師自らが生徒と共に自らの道徳性を養い、よりよく生きようという姿勢を大切に、日々の授業づくりや愛情をもった生徒への指導をすることが重要となる。

(4) 全体計画の別葉例（学級における指導計画）

学級経営の中心に道徳教育を位置付けた「学級における指導計画」の例である。道徳教育の全体計画を基盤とし、学級における道徳教育の指導方針などをまとめ、日常の道徳教育の指針とするとともに、学級担任が自己評価し、指導計画の改善を図るようにする。

学級経営案の中に「学級における指導計画」を組み入れてもよい。

平成〇〇年度 〇年〇組 学級における指導計画

学級目標

- ・積極的に取り組み分らないことを分かるようにするクラス
- ・仲間の喜びを自分の事のように喜び分かち合い団結するクラス
- ・何事にもあきらめないで完全燃焼するクラス

目指す学級像

- ・元気なあいさつができ、けじめのある学級
- ・何事にも本気で取り組むことができる学級
- ・思いやりあふれる学級

目指す生徒像

- ・元気な挨拶ができ、けじめある生活ができる生徒
- ・何事にも本気で取り組むことができる生徒
- ・思いやりをもって接することができる生徒

道徳教育の基本方針

- ・誰にでも笑顔で元気なあいさつができる生徒を育てる。
- ・思いやりと感謝の心で人と接することができる生徒を育てる。
- ・学級の一員として自己の役割を自覚し、責任を果たす生徒を育てる。

特別活動

- ・集団生活や行事を通して望ましい人間関係を築く。
- ・体験活動から助け合いの心を育てる。

各教科・総合的な学習の時間

- ・真理を追究し、問題解決能力を養うことができる授業展開の工夫・改善をする。
- ・探求的な学習を通して主体的に判断して学習できるようにする。

道徳科の授業の方針

- ・感動を与えられるような魅力的な教材の収集に努め、生徒が本気になって考えたいくなるような授業を展開する。(考える道徳)
- ・お互いの思いや考えをのびのびと発表させ、考えの違いに気づくことで多様な考えを受け止める心を育む。(議論する道徳)
- ・生徒が人間としてより良い生き方を深く自覚できるようにする。(価値の自覚)

教育環境の整備

- ・「道徳コーナー」を学級に設けて、道徳科の時間で学習したことを振り返る。

家庭・地域との連携

- ・学級だよりを通して道徳科の授業の話題を取り上げ家庭での話題のきっかけとする。
- ・授業を積極的に公開する。

生徒指導の視点

- ・集団の規律や社会の規則についての理解を深め、自ら考え判断し行動できるようにする。
- ・互いに人格を尊重し、誰もが生き生きと活動できるようにする。
- ・朝の会や帰りの会で道徳的価値に関わりのある話を促す。

1学期（担任記入）

2学期（担任記入）

3学期（担任記入）

学期が終わる毎に担任が記入し、次学期への取組の手立てとする。

2 年間指導計画

(1) 年間指導計画作成に当たって（配慮事項）

- ア 3年間を見通して、計画的、発展的な指導が行えるよう工夫する。
- イ 内容項目（22項目）は、各学年において1年間で全て取り上げる。
- ウ 主題は、他の教育活動との関連や地域社会の行事等を踏まえて効果的に配列する。
- エ 学校や学年で重点的に扱う内容項目は、複数時間で扱うようにする。
- オ ねらいに即して、どのような学習指導過程や指導方法で学習を進めるのかを簡潔に示す。
- カ 計画に変更や修正を加える場合は、少なくとも同一学年の他の教師や道徳教育推進教師と検討するとともに校長の了解を得る。

(2) 配當時数一覧表

年間の授業時数をもとに各内容項目に何時間配当するかを決める。その際、全体計画に示された重点目標を踏まえて時数を配当することで、年間または3年間を見通した重点的な指導が可能となる。下記の例では、指導する時期も含めた配當時数を一覧として示している。

ア 全学年を一覧にして示す例

視点	内容項目		第1学年		第2学年		第3学年	
			時数	時期	時数	時期	時数	時期
△主として自分自身に関すること	(1)	自主、自律、自由と責任	2	6月・10月	1	5月	1	4月
	(2)	節度、節制	1	4月	1	10月	2	5月・11月
	(3)	向上心、個性の伸長	1	7月	2	4月・11月	1	10月
	(4)	希望と勇気、克己と強い意志	2	5月・1月	2	10月・3月	1	7月
	(5)	真理の探究、創造	1	12月	1	9月	1	7月
□主として人との関わりに関すること	(6)	思いやり、感謝	3	5月・11月・2月	3	6月・11月・2月	3	4月・9月・1月
	(7)	礼儀	1	1月	2	4月・12月	1	6月
	(8)	友情、信頼	1	6月	1	5月	2	5月・10月
	(9)	相互理解	2	9月、12月	1	11月	1	2月
○主として社会に関わること	(10)	遵法精神、公德心	1	10月	2	9月、3月	1	11月
	(11)	公正、公平、社会正義	3	5月、9月、3月	3	6月、12月、2月	3	7月、10月、2月
	(12)	社会参画、公共の精神	1	11月	1	10月	1	9月

イ 列に月を配して示す例（第2学年）

視点	内容項目		4月	5月	6月	7月	12月	1月	2月	3月	合計
			時数	時期	時数	時期	時数	時期	時数	時期	
△主として自分自身に関すること	(1)	自主、自律、自由と責任		1							1
	(2)	節度、節制			1						1
	(3)	向上心、個性の伸長	1								2
	(4)	希望と勇気、克己と強い意志									3
	(5)	真理の探究、創造									1
□主として人との関わりに関すること	(18)	国際理解、国際貢献							1		1
	(19)	生命の尊さ			1			1			3
	(20)	自然愛護									1
	(21)	感動						1			1
○主として社会に関わること	(22)	よりよい社会				1				1	2
	合計		3	3	4	3	3	3	4	3	40

重点指導項目

(3) 主題配列

配当時数を定めた後、ねらいと教材とからなる主題を構成し、年間にわたって配列する。その際、一覧に表すことで意図をもった主題配列が行いやすくなる。しかし、配列一覧表だけでは年間指導計画として十分とは言えず、各時間の指導の概要が分かるものを加えることが求められる。

ア 全学年を一覧にして示す例

第1学年			第2学年			第3学年					
月	週	主題 【学習指導要領の内容】	ねらい 教材(出典)	月	週	主題 【学習指導要領の内容】	ねらい 教材(出典)	月	週	主題 【学習指導要領の内容】	ねらい 教材(出典)
	1	戦をそらえて心を整える 【節度、節制】	望ましい生活習慣を身に付け、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 父の一言(彩の国の道徳)		1	自分探し 【向上心、個性の伸長】	自己を認め、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして定めた生活を達成する態度を育てる。 きらめけ ぼくだけの景色(彩の国の道徳)				
	4	責任ある行動 【自主、自律、自由と責任】	自己の行為が及ぼす結果についてよく考え、責任ある行動をしようとする心構を育てる。 裏庭のできごと(副読本)		4	時と場をわきまえた言動 【礼儀】	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる判断力を高める。 あなただけの道徳(彩の国の道徳)				
	2	責任ある行動 【自主、自律、自由と責任】	自己の行為が及ぼす結果についてよく考え、責任ある行動をしようとする心構を育てる。 裏庭のできごと(副読本)		2	自分を律して 【自主、自律、自由と責任】	自律の精神を重んじ、誠実に実行する判断力を高める。 ネット将棋(私たちの道徳)				
	5	思いやりはどこから 【思いやり、感謝】	思いやりの心をもって人と接し、人間愛の精神を深めようとする心構を育てる。 母の誇り(彩の国の道徳)		5	自分を律して 【自主、自律、自由と責任】	自律の精神を重んじ、誠実に実行する判断力を高める。 ネット将棋(私たちの道徳)				
	3	いじめを許さぬ強さ 【公平、公正、社会正義】	誰に対しても公平に接し、差別や偏見をわきまをわきまにしていじめを許さぬ強さを育てる。 わたしがいじめたこと(副読本)		2	自分を律して 【自主、自律、自由と責任】	自律の精神を重んじ、誠実に実行する判断力を高める。 ネット将棋(私たちの道徳)				
	1	かけがえのない生命を尊重して 【生命尊重】	動物の命について理解が深まり、命を大切にする心構を育てる。 キミは赤ちゃんの命(副読本)		3	誠実な生き方 【自主、自律、自由と責任】	他人の言動に左右されず、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ態度を育てる。 私たちの初詣(彩の国の道徳)				
	6	望ましい生活習慣 【節度、節制】	望ましい生活習慣を身に付け、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 父の一言(彩の国の道徳)		6	望ましい生活習慣 【節度、節制】	望ましい生活習慣を身に付け、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 父の一言(彩の国の道徳)				
	1	弱い自分に負けず 【希望と勇気、希望と意志】	希望と勇気をもつ、困難や失敗を乗り越え、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 心の風(彩の国の道徳)		1	弱い自分に負けず 【希望と勇気、希望と意志】	希望と勇気をもつ、困難や失敗を乗り越え、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 心の風(彩の国の道徳)				

本例は、3年間を見通すことを重視した一覧表である。中学校3年間にわたる道徳科の指導の系統が明確になる。職員室や印刷室等、目に留まる場所に掲示すると効果的である。

ねらいと教材で構成される主題を配列する際に、特に年間で取り上げる回数が少ない内容に関して、3学年を見通した計画的、発展的な指導を意図的に位置付けることが容易となる。例えば、上記の【自主、自律、自由と責任】では、第1学年で「心情」を、第2学年で「判断力」を、そして第3学年で「態度」をねらいとしている。

生徒が主体的に道徳性を育むための指導の工夫として、学年始めの自分の在り様やこれからの自分の課題や目標を捉えるための学習を行うことも有効である。

複数時間の関連を図った指導を取り入れる。一つの主題を2単位時間にわたって指導したり、重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進めたりすることなどが考えられる。

イ 展開の概要を加えた主題配列表の例 (第2学年)

月	週	主題	ねらい (学習指導要領の内容)	教材 (出典)	展開の概要
	1	自分を伸ばして	これまでの自分を見つめ、よりよい自分になろうとする意欲を高める。 (向上心、個性の伸長)	自分の中にある「良い所」「改めたい所」 (私たちの道徳)	1. 去年までの道徳学習を振り返る。 2. 私たちの道徳 p.38,39 を読む。 3. 私のカラーについてグループで話し合う。 4. 私たちの道徳 p.41 を記入し、自分を見つめる。 5. 「自分を深く見つめて」を読む。
	4	生活を見直す	望ましい生活習慣のある生活をしようとする心構を育てる。 (節度)		自分の周りの整理整頓について、発表し合う。 教材を読んで話し合う。 「はなしの女王」を直そうと思ったのはどんな気持ちからか、でやっているわけではないのに、なぜ直さなければいけないのか、度のある生活するにはどのような心構が必要か話し合う。
	1	広い心で	いろいろなものを受け入れることを理解し、寛容の心をもつとする態度を育てる。 (相互理解、寛容)	言葉の向こうに (私たちの道徳)	1. ソーシャルネットワークの利点を話し合う。 2. 教材を読んで話し合う。 ○「あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべて」と言われた主人公は考えたか。 ○主人公が発見したすごいことは何か。また、そのことをあなたはどう思うか。 3. この学習をおして学んだことや考えたことはどのようなことか。
	10	きまりの尊重と人間愛	法やきまりの意義を理解し、規律や秩序ある社会をつくることについて判断する力を育てる。 (遵法精神、公德心)	二通の手紙 (私たちの道徳)	1. 世の中にはどんなきまりがあるか話し合う。 2. 教材を読んで話し合う。 ○姉弟を人園させた原産の行動をあなたはどう思うか。またそれはなぜか。 ○それぞれの判断が及ぼす結果にはどのようなものが考えられるか。 ○あなただったらどうするか。 3. 次時の学習に向け、杉原千畝の写真を見て関心をもつ。
	3	人間愛	人間愛の精神を深く自覚し、人間として誇りある生き方について考え、判断する力を育てる。 (よりよく生きる喜び)	六千人の命のピザ (副読本)	1. 二通の手紙をもとに考えた前時の学習を想起する。 2. 教材を読んで話し合う。 ○杉原千畝にとって何が問題となっていたのだろうか。 ○ピザを発給すべきか、すべきでないか。また、それはなぜか。 3. 二通の手紙での判断と矛盾が生じていないか話し合う。 4. 前時と本時の学習をとおして考えたことをまとめる。
	4	弱い自分に勝つ	希望と勇気をもつ、困難や失敗を乗り越え、心身の調和のある生活をしようとする心構を育てる。 (希望と意志)		どのようなものがあるか出し合う。 読んで話し合う。 月に悩んでいるのだろうか。 なぜハードル走に出場することにしたのか。 が数えるよ、よけなび、大団円のみ、読ん

(4) 年間指導計画例

月別の様式を作成した例である。道徳教育推進教師や学年の担当者などが月末に翌月の指導計画を配布し、学年会議などで授業の準備や発問などを検討し効果的に活用する。学年で話題にすることにより、着実な授業実践を積み重ねるとともに、評価欄を生かし指導計画の改善を図ることができる。

1 学年 基本方針	重点内容項目 A 向上心、個性の伸長 D 生命の尊さ 自他の生命を尊重する生徒の育成を目指し、ねらいに即した学習指導過程と指導方法の工夫をする。(議論の重視、保護者や地域の方々への参加・協力、複数時間の関連を図った指導)		
月	主題名	自分を探そう	内容項目 A 個性の伸長
5 月	ねらい	個性の伸長について、全盲の我が子に対する母の思いを考慮することを通して、その意義を理解し、充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。	
	教材名	きらめけぼくだけの音色	出典 彩の国の道徳「自分を見つめて」 埼玉県教育委員会 発行
	主題構成の理由	個性はその人固有の持ち味であり、個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。全盲で誕生した主人公が母からの愛情のもと、有名なピアニストにまで成長する姿が描かれた教材を活用して、生徒が自分の個性を伸ばし、充実した生き方を追い求めることに向き合う意義は大きい。	
	学習指導過程	1 辻井伸行さんの国際ピアノコンクール優勝を報じた新聞記事を知る。 2 教材「きらめけぼくだけの音色」を読んで話し合う。 (1) 我が子が全盲で誕生した時の母はどんな気持ちだったか。 (2) 母は福沢美和さんとの出会いでどんなことを学んだのか。 (3) クリスマスの奇跡が起こった時の母はどんな気持ちだったか。 3 本時の感想を記入するとともに、「私たちの道徳」P39を開き、「私のカラー」を記入する。 4 かけがえのない自分を肯定的に捉えること(自己受容)や自分の優れている面の発見(自己理解)に努め、自己との対話を深めながらそのよさを伸ばしていこうとする思いをもつ。	
	他の教育活動との関連	=音楽科・美術科= 自分の思いを伸び伸びと表現することの大切さにつなげる。	
	備考	導入で新聞記事を利用(朝日新聞 H21/6/11 付朝刊)	
	授業の改善点等	導入で新聞記事を利用したことで教材への興味付けができた。	
	主題名	かけがえのない生命	内容項目 D 生命尊重
	ねらい	主人公に対する自分の考えを表出し話し合うことを通して、生命の尊さについての理解を一層深め、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる。	
	教材名	へその緒	出典 読み物資料とその利用「主として自分自身のこと」 文部科学省 発行
主題構成の理由	いじめに苦しむ主人公が母から見せられたへその緒によって生きることの大切さに気付く教材を活用して、生命の有限性や連続性への理解を深め、かけがえのない生命を尊重する意義について考えさせたい。		
学習指導過程	1 「私たちの道徳」を読み、生命について考える。 2 教材「へその緒」を読んで話し合う。 (1) 主人公の考えに共感できるところと共感できないところについて自分の考えをまとめる。 (2) 主人公の考えに共感できるところと共感できないところについてグループ(3～4人)で話し合う。 (3) グループでの議論の結果を発表する。 3 本時の感想を記入するとともに、友達の意見から考えたことをまとめる。 4 養護教諭や保護者から生命誕生時の様子を聞き、命についてもう一度深く考える。		
他の教育活動との関連	=家庭との連携= 生命の尊さについて家庭での話題となるようにつなげる。		
備考	終末で養護教諭や保護者の参加		
授業の改善点等	次年度は学校公開時に保護者参加型で行うとよい。		

授業後に担任が記入する。

3 学習指導案

【学習指導案例①】（読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習）

第3学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
授業者 教諭 ○○○○

1 主題名 きまりやルールを守る 内容項目 [C 遵法精神]

年間指導計画を踏まえて、ねらいを記述するとともに、教材名を記述する。

2 ねらい 主人公に自分を重ねて考え話し合うことを通して、きまりやルールを守ることの意義を理解し、積極的に社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。

教材名 「上級学校を訪ねて」 (出典 彩の国の道徳「自分を見つめて」 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

ねらいや指導内容についての教師の捉え方を記述する。
解説の内容項目の概要及び指導の要点を参考にするとよい。

「法やきまり」は集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであり、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障される。法やきまりの遵守とともに、一人一人が当事者として関心をもち、適正な手続きを経てこれらを変えることも含め、その在り方について考えることが必要である。中学生ともなれば、社会に生きる人間の在り方についての自覚が深まり、社会にいろいろな仕組みが必要であること、きまりやルール、あるいは法によって秩序が保たれていることが理解できるようになってくる。

指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促していく。また、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結びつけていく。さらに、遵法精神には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情を想像できる思いやりの心がかかわっていることに気付かせたい。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「**ねらいや指導内容に関する生徒のこれまでの学習状況や実態、教師の願いを記述する。**」

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校低学年で「約束やきまりを守り、みんなが使う物をたいせつにすること。」、中学年で「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」、高学年で「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」を学んできている。また、中学1年生では「〇〇」を教材として、「～しようとする意欲」、中学2年生では「△△」を教材とし、「～しようとする態度」を学習してきた。

中学3年生としては、まだまだ落ち着きや真剣さの面で不安が多いのが現状である。進路に対して、真剣に考え、今自分は何をすべきか、どうあるべきなのかを日々の生活の中で実践しつつある生徒もいる反面、学校生活の中でも当然なすべきことを行えない生徒の姿も見られる。

きまりやルール及び法について、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができる生徒もいるが、「ルールだから守る」と他律的に捉え、単に守っていればよいとしている生徒も多い。そのことが学校の規則に反発する傾向を生むことにもなる。また、きまりやルールのもつ意味が十分理解されていないために、自己主張が優先してしまうこともある。したがって、この時期にきまりやルール、そして法の意義を明確にし、社会の規律を高めようとする態度を育てる。

(3) 教材の特質や活用方法について

使用する教材の特質や取り上げた意図及び生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法などを記述する。

本教材は、自由で束縛されない生活にある大人や高校生の行動や、訪問先でのA高校を訪問する際、電車内で遅れて学校に戻ってきたグループの言動などを通して、きまりやマナーの大切さについて徐々に自覚していく様子が描かれている。

この教材を通して、主人公「由希子」の心の内を考えさせながら、きまりやマナーは窮屈で邪魔なものということではなく、自分たちの生活や権利を守るだけではなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせたい。

そのために、本時の話し合いでは、以下の3つの場面を中心に、ねらいに迫っていく。

① 満員電車の車内の場面で、高校生の姿を自由でいいなと思う反面、乗客の行為が気になってしまったことに着目させる。

- ② 生徒会長の言葉を聞く場面で、きまりを守ることに主人公の考えが揺れていることをおさえる。
 ③ 生徒会長の姿が心に浮かんだ場面で、きまりやルールの意義や必要性を、先生の言葉や生徒会長の姿を通して、心から理解したことに気付かせる。
 以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 ○○中学校の生活のきまりについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 細かすぎる。 もっと自由でもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の内容に興味や関心をもたせる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 (1) 満員電車で、由希子はどんなことを感じたのだろうか。 (補助発問) 自由を望んでいた由希子はなぜ嫌な気持ちになったのだろうか。 (2) 生徒会長の言葉がすんなりとは理解できなかったのはなぜだろう。 (3) 生徒会長の姿が心に浮かんだのはなぜか。そして、由希子はどんなことに気付いたのだろうか。 (補助発問) 由紀子と生徒会長との違いは何だろう。	きまりやルールって、何だろう？ ・大人だってマナーやきまりを守ってほしい人がいる。 生徒の考えを予想し、それに沿った発問や考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問を心掛ける。 ・周りの人が不愉快に思っている。 ・周囲に迷惑をかけている。 ・憧れていた自由な高校生活とは違い、また細かいルールがあるのか…と思っていたから。 ・自分はこの高校に入学して楽しい学校生活を送れるのだろうか、と思ったから。 ・本当に細かいルールを守ることがお互いに気持ちよく生活したり、有意義に実りあるものにしたのだろうか、と思ったから。 ・ルールやマナーの意義と必要性を遅れてきたグループの行動を通して理解できたから。 ・この出来事を通してA高校の生徒会長の言葉の本当の意味が分かった。ルールを守らないで自分勝手な行動を取ると、結果的に周りに迷惑をかけてしまうということに気付いた。 ・自分たちもルールを守ってはいるが、自分たちは嫌々守っている。 ・生徒会長たちは自主的に守っている。 ・きまりの意義や必要性を理解しているからいい。	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の考え方や心の動きに着目させる。 自由でいいなど思う反面、乗客の行為が気になってしまったことに着目させる。 迷惑さえかけなければ細かいルールはない方がいいと思っていることをおさえる。 生徒会長の言葉がすんなりとは理解できなかったことと、生徒会長がはるかに大人に感じられた理由を考え、きまりを守ることに主人公の考えが揺れていることをおさえる。 ☆きまりに関して揺れる由紀子の心の内について、友達の多様な意見を踏まえながら考えている。 きまりやルールの意義と必要性を、先生の言葉や生徒会長の姿を通して、心から理解したことに気付かせる。
	3 本時の学習課題について、気付いたことや考えたことをまとめる。	生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として書く活動を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業を振り返りながら、書く活動を通して、学習課題について考える。 ☆これまでの体験を想起しながらきまりやルールを守ることの意義について考えを深めている。
	終末	4 教師の説話を聞く。	教師の人間性がにじみ出る説話は、生徒の心情に訴え、深い感銘を与える。

特に関連のある教育活動や体験活動、日常との関連、事前や事後の指導の工夫、家庭や地域社会との連携等について記述する。

5 他の教育活動等との関連

事前指導	帰りの会で「きまりやルール」について、生徒の実態を把握するためにアンケートを実施する。
道徳科	・教材名「上級学校を訪ねて」 きまりやルールを守ることの意義を理解し、積極的に社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。
事後指導	帰りの会で「私たちの道徳」のP136『社会の秩序と規律』を読み、その部分を教室に掲示する。
家庭との連携	本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でもきまりやマナーの大切さなどについて話題にしよう。

6 評価の視点

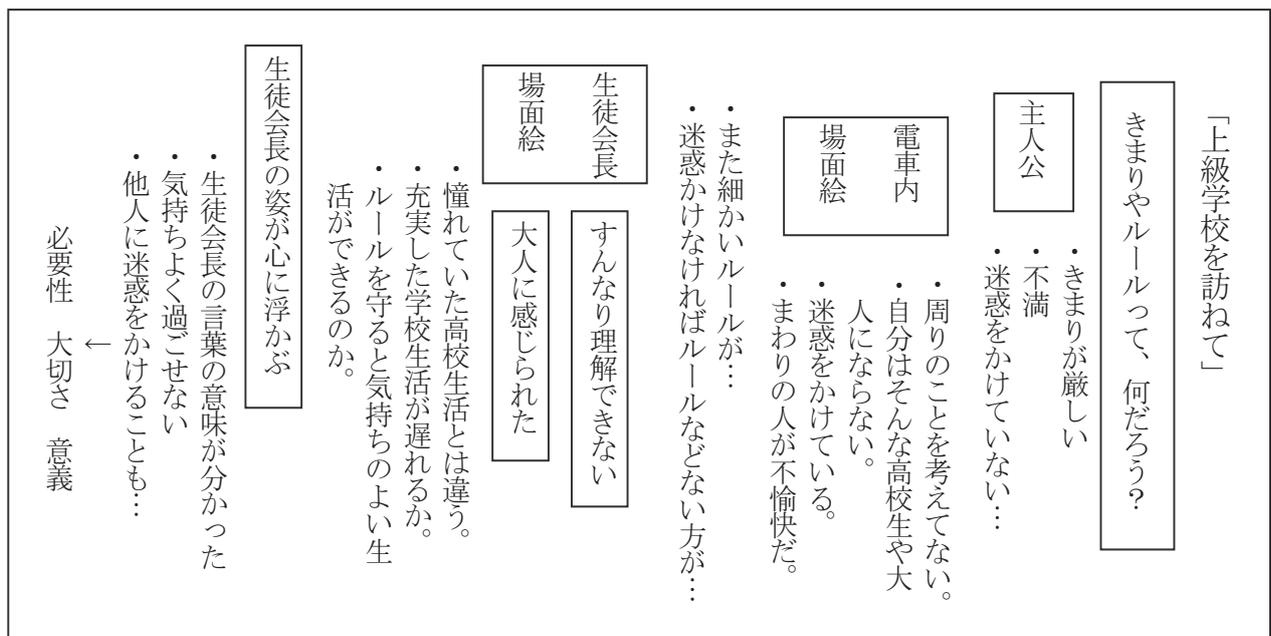
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・きまりやルールに関する主人公の心の内を様々な視点から捉え考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・きまりやルールを守ることの意義について自分との関わりで考えている。

7 板書計画



【学習指導案例②】(問題解決的な学習)

第1学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

授業者 教諭 〇〇〇〇〇

- 1 主題名 思いやりの心 内容項目 [B 思いやり、感謝]
- 2 ねらい 「優しさ、思いやり」とは何かを考え、話し合うことを通して、相手の立場や気持ちに配慮した思いやりについて理解し、自他共にかげがえのない人間であることを自覚して生きようとする態度を養う。
- 教材名 「母の誘い」(出典「彩の国の道徳」中学校『自分を見つめて』埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいと指導内容について

「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」ことをねらいとしている。思いやりの心は、自分が他に能動的に接するときに必要な心のあり方であり、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ますという生き方に現れる。思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならず、このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないことがわかる。それゆえに、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにさせたいと考える。思いやりには、思いやる対象、相手が存在する。その人がこれまで何をしてきたか、現在どういう状況にあるか、今、何を喜び、何を悩み苦しんでいるか、他人に何をしてほしいと望み、何をしてほしいと思っているかなど、思いやりは相手の心や状況を押し量り、想像する心である。

指導に当たっては、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そして、互いに支え合う経験を積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、思いやりの心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について 一略一

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、母の生き方から「優しさ」の心をもって人に接することのできる人間になりたいと考え、人のために尽くし、働くことが大好きな中学生彩香を主人公とした話である。院内学級や老人ホームでのボランティア活動の中で苦悩する彩香が、母親の言葉を通して、他者に尽くすことで味わう自分自身の喜びに気付くという内容である。本教材では、彩香はボランティア活動を通して知らず知らずのうちに見返りや感謝の言葉を求めている。そんな彩香の言動に、母は「してあげている」という気持ちと「したい」という気持ちのどちらなのと聞く。そして、「思いやり」とは自分ならこうしてほしいだろうなと思った自分の「思い」を相手に届けることで、決して一方的なものでも独りよがりのものではなく、相手の立場に立って「したい」という「思いやり」だと気付く。それまでの彩香の心の内を考えさせ、話し合いを深めていきたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 教材「母の誘い」の読み聞かせを聞き、道徳的な問題を見つける。 「優しさ、思いやり」とは何だろう。		・道徳的な問題を明らかにすることで、どの生徒も同じように問題意識をもつことができるようにする。

展 開	<p>2 道徳的な問題について話し合う。</p> <p>(1) 主人公が考えている「優しさや思いやり」とはどのようなものだったのだろうか。</p> <p>(補助発問) 主人公にとって、優しさや思いやりをもって相手に接することのよさは何だろう。</p> <p>(2) 院内学級や特別養護老人ホームで、主人公の優しさが通用しなかったのはなぜだろうか。</p> <p>(3) 自分の考えが通用しなかったと感じている主人公は、母の話を聴いてどんなことに気付いたのだろうか。</p> <p>(4) 「本当の優しさ、思いやり」とは何か話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に手を差し伸べること。 ・誰かに何かしてあげること。 ・人のために尽くしたり、働いたりすること。 ・相手に喜んでもらえること。 ・周りから褒められること。 ・心が充実し、満ち足りた気分になること。 ・相手にとっては、必要でなかったり、迷惑だったこと。 ・相手の状況を考えずに行動したから。 ・自分本位な活動だったかもしれないから。 ・「してあげている」という気持ちと「したい」という気持ちでは、違うということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「私がこんなに拓也君のためにやってあげているのに…」の言葉に着目させる。 ・心が満ち足りなかった原因を話し合わせる。 ・支援する相手の立場をちゃんと受け止めて活動していなかったことからくる違和感等を話し合わせる。 ☆主人公の言動について、登場人物それぞれの立場から考え話し合っている。 ・「してあげている」「したい」の違いを押さえながら話し合わせる。 ・話合いの論点をまとめながら生徒の自己解決を支援する。 ・「優しさ、思いやり」とは何かを、グループやクラス全体で話し合う。 ☆「優しさや思いやり」は、自己中心的なものでなく、相手の状況や立場を慮った上での感情であることを自分なりの言葉で表出している。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「本当の優しさ、思いやり」とは何だろう。</p> </div>		
終末	<p>4 まとめ</p> <p>本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かしていくか考え、道徳ノートに書く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話合い等を通して考えた、「優しさ、思いやり」について道徳ノートに書かせる。

5 他の教育活動との関連 一略一

6 評価の視点 一略一

7 板書計画 一略一

【学習指導案例③】（情報モラルを扱った体験的な学習）

第2学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者 教諭 ○〇〇〇〇

- 1 主題名 立場の違いを受け入れる 内容項目 [B 相互理解、寛容]
- 2 ねらい 寛容や謙虚について、多様な考え方を基に多面的・多角的に捉え直すことを通して、立場の違いを考えを尊重し受け入れることの大切さを理解し、謙虚な態度を育てる。
教材名 「言葉の向こうに」（出典 「私たちの道徳」 文部科学省）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人間が他者との関係の中で生きていくためには、自分の意見を適切に伝えることはもちろん、他者の個性を尊重し、それを謙虚に寛容の心で受け止めることが必要である。最近はスマートフォンの普及により、それに派生する問題も数多く起こっている。—以下略—

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、各教科や特別活動において、話合いを多く取り入れているので、自分の意見を素直に発表したり、異なる意見を受け入れたりすることが出来ている。しかし、インターネットの世界では、やはり寛容さが弱まったことによる、SNSにおけるトラブルの指導が何度かあった。—以下略—

(3) 教材の特質や活用方法について

この教材は、インターネットの世界で、普段の生活では得られない友人を得ているが、ちょっとした意見の違いから、寛容さを欠いた発言を書き込み、トラブルになるという話である。主人公が中学生であることや、日常的によくある問題をテーマにしているため、主人公に共感しやすい教材である。

—以下略—

以上のことにより、本主題を設定した。

4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 インターネットやSNSなどでトラブルになったことはないか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 書き込みをしてトラブルになったことがある。 相手からの返信内容が怖いと感じたことがある。 スマートフォンを持っていないので、詳しくは知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンなどを持っていない生徒もいるので、簡単に説明する。実際にあった例などを用いて、生徒に課題意識をもたせる。
	2 課題を設定する。 ・教材の読み聞かせを行う。	インターネットの世界でトラブルを起こさないためには、どんな心が必要か。	【課題設定】 1時間を貫く課題を設定し、課題を追求することで、ねらいに迫るようにする。 ・主人公の動きに注目させて読み聞かせをする。

展 開	<p>3 課題について話し合う。</p> <p>(1) A選手に批判的なユーザーとの論争の中で、加奈子はどうのような気持ちだったのだろうか。</p> <p>(補助発問) 顔を合わせた討論だったら、ここまで言うだろうか。</p> <p>(2) 自分の書き込みを注意され、加奈子はどんなことを考えたのだろうか。</p> <p>(補助発問) 「私」は本当に悪い(悪くない)のだろうか。</p> <p>(3) 加奈子が気付いた大切なこととはどのようなことだろうか。</p> <p>(補助発問) 「言葉の向こうにあるもの」とは何だろう。</p> <p>(4) インターネット(情報コミュニケーションツール)を使う上でどんな心が大切か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頭にくる。わざわざファンサイトに悪口を書きこまなくてもいいのに。 ・反論したくて書かずにいられないし、相手に負けたくない。 ・文字だけの討論なので、書きたいことを書いてしまう。 ・相手の顔もわからないので、言葉づかいも悪くなってしまふ。 ・自分は悪くないのになぜ言われるのか分からない。 ・A選手が悪者になってもいいというのだろうか。 ・批判する人は無視すればいい。加奈子も悪い。 ・きつい言葉で反論する加奈子も相手と同じ。 ・自分の考えがあるのと同じで、相手にも思っていることがある。尊重し合うこと。 ・ネットを通してあるので相手の顔は見えないが、面と向かっているのと同じ。相手がいることを忘れない。 ・自分の言葉の向こうには、多くの人たちがいる。一つ一つの自分の言葉に責任を持たなければならない。 ・人それぞれ意見をもっている。相手の意見を受け止め、発言することが大事だ。 ・相手がいることを考え、異なる意見に謙虚になることが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A選手に批判的なユーザーに対して怒りを抑えられず、ヒートアップする加奈子の気持ちに共感させる。 ・インターネットの匿名性が言葉の使い方をきつくなる原因になっていることに気付かせる。 ・多面的・多角的な視点から道徳的な問題を捉えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【補助発問】 生徒の発言を受けた補助発問で、生徒に多面的・多角的に考えさせる。</p> </div> <p>☆相手を非難する方向か、自分を顧みる方向か、その理由を基にしながらか寛容・謙虚について考え話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。 ・設定した課題について発問を深める。その際に、「思いやり・感謝」「礼儀」などの関連した価値についても併せて考えさせる。 ・グループで話し合い、多面的・多角的に考えることで自分の考えを深める。
			<p>【話し合い】 話し合いを通して、多様な考えに触れることで、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める。</p>

	<p>4 実際にどのように行動したらトラブルを回避できただろう。</p> 	<p>【役割演技】 自分ならどうするのか、寛容の心を行為に表すことで、実際の生活に生かせるようにする。</p>	<p>・役割演技を行う際には、「どうすれば解決するか」という視点ではなく、「寛容の心を行為に表すとどのようになるか」という視点で行うようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>5 これまでの自分を振り返り、授業で学んだことやこれからの自分の生き方について道徳ノートに書いてみよう。</p>	<p>・これからの情報化社会の中で、相手の考えを尊重し、寛容な心を忘れずに生活していきたい。</p> <p>【書く活動】 道徳ノートを活用して、テーマを自分との関わりで捉え、自己を見つめ直す。</p>	<p>・今後の生き方に生かせるよう、実践意欲をもたせる。 ☆これまでの自分を振り返りながら寛容・謙虚の大切さを理解し、これからの生き方を考えている。</p>

5 他の教育活動との関連

事前指導	・特別活動における、携帯電話やSNSに関する指導
道徳科	・教材名「言葉の向こうに」
事後指導	・「SNS教室」
家庭との連携	・保護者会等で、SNSの使い方について啓発を行う。

6 評価の視点

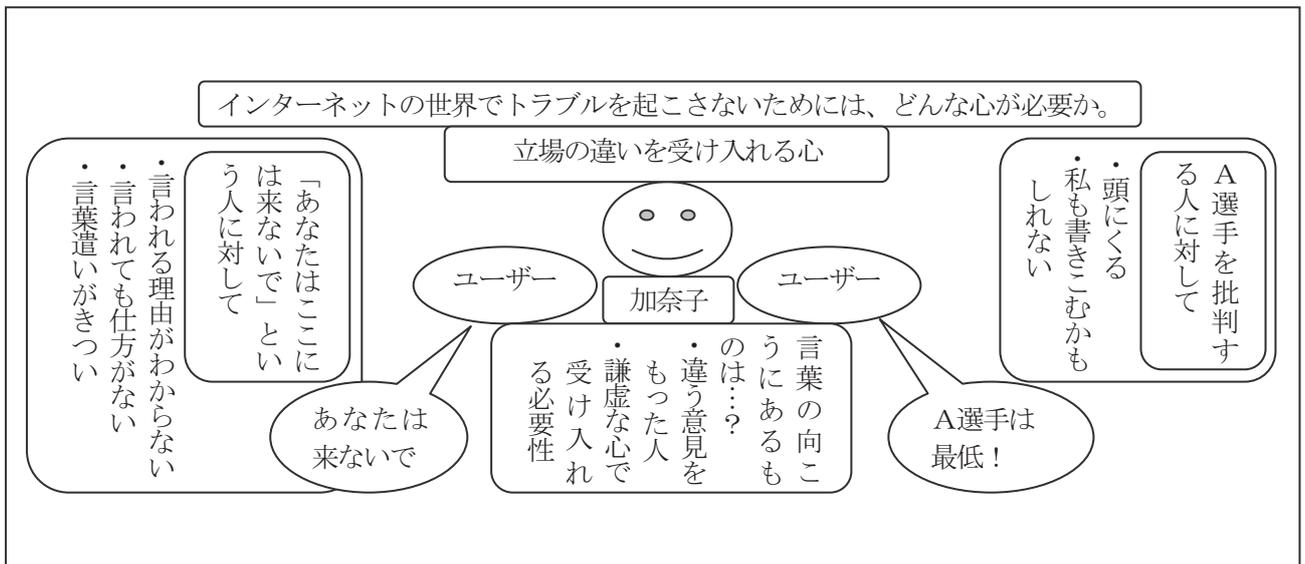
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・課題の解決に向け、様々な視点から寛容や謙虚について考え話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・寛容や謙虚であることの大切さを理解し、これからの自分の生き方を見つめている。

7 板書計画



小・中学校学年段階ごとの内容項目一覧表

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)
A. 主として自分自身に関すること	<p>善悪の判断、自律、自由と責任</p> <p>正直、誠実</p> <p>節度、節制</p> <p>個性の伸長</p> <p>希望と勇氣、努力と強い意志</p> <p>真理の探究</p>	<p>(1) よいことと悪いことの区別をし、よいと思ふことを進んで行うこと。</p> <p>(2) うそをついたりごまかしをしない、正直に伸び伸びと生活すること。</p> <p>(3) 勉強や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしない、規則正しい生活すること。</p> <p>(4) 自分の特徴に気付くこと、長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。</p> <p>(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。</p> <p>(7) 家族など生活を支えてくれている人や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもち、大切にすること。</p> <p>(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても敬意をもち、接すること。</p> <p>(9) 友達と仲よくし、助け合うこと。</p> <p>(10) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自衛的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安楽に家を行くことや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を直直し、節度を守り制約し心掛けること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改善の場所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p> <p>(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもつて接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり技術を高め、助け合うことでも理解しながら、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>(1) 自由の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り制約し心掛けること、安全で豊かな生活すること。</p> <p>(3) 自己を思ひ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして発展した生き方を追求すること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p> <p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間性の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友誼の尊さを理解し、時と場に応じて適切な言動をとることに努め合い、高め合うことにも、異性についての理解を深め、優美や優雅な振る舞いなどが人間関係を深めていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつてを理解し、寛容の心をもつて謙遜に他人と学び、自らを高めていくこと。</p>
B. 主として人との関わりに関すること	<p>親切、思いやり</p> <p>感謝</p> <p>礼儀</p> <p>友情、信頼</p> <p>相互理解、寛容</p>	<p>(1) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(2) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(3) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(4) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(5) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(6) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(7) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(8) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(9) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(10) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自衛的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安楽に家を行くことや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を直直し、節度を守り制約し心掛けること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改善の場所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p> <p>(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもつて接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり技術を高め、助け合うことでも理解しながら、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>(1) 自由の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り制約し心掛けること、安全で豊かな生活すること。</p> <p>(3) 自己を思ひ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして発展した生き方を追求すること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p> <p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間性の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じて適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友誼の尊さを理解し、時と場に応じて適切な言動をとることに努め合い、高め合うことにも、異性についての理解を深め、優美や優雅な振る舞いなどが人間関係を深めていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつてを理解し、寛容の心をもつて謙遜に他人と学び、自らを高めていくこと。</p>
C. 主として集団や社会との関わりに関すること	<p>規範の尊重</p> <p>公正、公平、社会正義</p> <p>勤労、公共の精神</p> <p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <p>伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <p>国際理解、国際貢献</p>	<p>(1) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(2) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(3) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(4) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(5) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(6) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(7) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(8) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(9) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(10) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自衛的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安楽に家を行くことや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を直直し、節度を守り制約し心掛けること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改善の場所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p> <p>(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもつて接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり技術を高め、助け合うことでも理解しながら、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>(1) 自由の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り制約し心掛けること、安全で豊かな生活すること。</p> <p>(3) 自己を思ひ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして発展した生き方を追求すること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p> <p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間性の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じて適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友誼の尊さを理解し、時と場に応じて適切な言動をとることに努め合い、高め合うことにも、異性についての理解を深め、優美や優雅な振る舞いなどが人間関係を深めていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつてを理解し、寛容の心をもつて謙遜に他人と学び、自らを高めていくこと。</p>
D. 主として生命や自然、芸術などの関わりに関すること	<p>生命の尊さ</p> <p>自然愛護</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p>	<p>(1) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(2) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(3) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(4) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(5) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(6) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(7) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(8) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(9) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p> <p>(10) 約束やまわりを守り、みんなが使った物を大切にすること。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自衛的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安楽に家を行くことや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を直直し、節度を守り制約し心掛けること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改善の場所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p> <p>(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもつて接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり技術を高め、助け合うことでも理解しながら、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>(1) 自由の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り制約し心掛けること、安全で豊かな生活すること。</p> <p>(3) 自己を思ひ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして発展した生き方を追求すること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p> <p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間性の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じて適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友誼の尊さを理解し、時と場に応じて適切な言動をとることに努め合い、高め合うことにも、異性についての理解を深め、優美や優雅な振る舞いなどが人間関係を深めていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつてを理解し、寛容の心をもつて謙遜に他人と学び、自らを高めていくこと。</p>

